

第2学年 国語科学習指導案

指導者 T1 三原 知弥
T2 田村亜由美

1 単元名 俳句の世界を物語で伝えよう 「いきいきと描き出そう」(東京書籍2年)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「イメージ豊かに物語を書く」ことを位置付けた。この活動を通して、生徒は伝えたい内容の中心を物語のどこに位置付けるのかを考えて構成の工夫をしたり、事柄や心情の描写を工夫したりすることを学ぶことができる。それにより、本単元でねらう「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」(B書くことイ) や「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと」(B書くことウ) を実現できると考える。

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、これまで「書くこと」の領域では、意見文を書く学習を行っている。その際、頭括型、尾括型、双括型といった文章の構成を理解して、意見文を書く学習活動を行った。その学習において、文章の構成がもつ効果について考えることを通して、目的や意図に応じ、文章の構成を工夫して書く能力を身に付けた。しかし、事前の調査の結果、文脈に即した会話文や、比喩表現を用いて記述をする力が不足していることが分かった。これは、中学校で物語を書く言語活動に取り組んだ経験がないことに起因すると考えられる。したがって、本単元において、物語の描写を工夫するという学習を行うことが必要である。

(2) 教材観

「いきいきと描き出そう」は俳句や短歌、写真や絵画などの材料を出発点として、そこから想像を広げていき、物語を創作するという教材である。そのため、場面や登場人物などの設定や話の展開を考えたり、事柄や心情の描写を工夫したりすることについて学ぶことができる内容になっている。また、本教材の特徴として、描写について練習をするための「はじめの一歩」や、学習の参考となる事柄を示した「言葉の力」が掲載されている。これらを生かすことで、生徒が身に付けるべき能力を認識しながら学習を進めていくことができるような単元構成になっている。

(3) 指導観

本単元では、言語活動として「イメージ豊かに物語を書く」ことを設定し、まず、複数の俳句を提示することで、生徒がそこから一句を選択できるようにする。次に、物語の場面や登場人物などを設定し、文章の構成を考えていくようとする。その際、個人の思考の流れを可視化することで、生徒が互いに助言・交流できるようとする。そして、語彙の一覧表や、物語を場面ごとに記述することができるワークシートの活用を通して、事柄や心情の描写を工夫できるようにする。生徒の実態を踏まえると、記述の学習場面に入る前に、表現技法について学ぶ機会を設けることが必要であると考える。具体的には、課題となっている登場人物の言動や比喩表現をどのように記述するのかを指導し、あらかじめ記述の学習経験を積むということである。このように、「イメージ豊かに物語を書く」ことで、伝えたい内容を明確にして、文章の構成を工夫したり、事柄や心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫したりする能力を育てていきたい。

4 単元の目標

- 目的や意図に応じ、構成や描写の工夫をして物語を書こうとする。 (関心・意欲・態度)
- 伝えたい内容を明確にして、文章の構成を工夫することができる。 (書くこと)
- 事柄や心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫することができる。 (書くこと)
- 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・目的や意図に応じ、構成や描写の工夫をして物語を書こうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を明確にして、時系列や回想といった物語文の構成を工夫している。 事柄や心情が相手に効果的に伝わるように、比喩や会話文、擬音語、擬態語などを用いて描写を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。

6 単元の指導計画（8時間扱い）

次 時	主 な 学 習 活 動	主 な 評 価
1 1	模範となる物語文を読み、それを書くために必要な事柄について考えることを通して、全体の見通しをもち、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 物語をイメージ豊かに書くために必要な学習の計画を立て、物語文を書き上げる手順を明確にして、学習の見通しをもとうとしている。 (関心・意欲・態度) 相手や目的に応じて、文章の形態や展開を工夫することで表現上の効果に違いがあることを理解している。 (言語についての知識・理解・技能)
2 1	複数の俳句の中から出発点としたい一句を選んで、場面や人物を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 出発点となる俳句を選択し、それを基にして伝えたい内容を表現するにふさわしい場面や人物の設定をしている。 (書く能力)
	文章の目的や意図、構成の効果について考えながら、物語の構成を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を明確にして、読者を引きつける効果を意識して、時系列や回想といった物語の構成を工夫している。 (書く能力)
	模範となる物語文を読んで、効果的な描写について意見交換をしながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> 事柄や心情を効果的に表現するために、比喩や会話文、擬音語、擬態語などを取り入れて物語を書いている。 (書く能力)
	語彙集を参考にして、場面ごとに工夫して描写する。	<ul style="list-style-type: none"> 事柄や心情が相手に効果的に伝わるように、比喩、擬音語、擬態語といった修辞法や会話文などの表現を工夫している。 (書く能力)
	語彙集を参考にして、場面ごとに工夫して描写する。	<ul style="list-style-type: none"> 事柄や心情が相手に効果的に伝わるように、比喩、擬音語、擬態語といった修辞法や会話文などの表現を工夫している。 (書く能力)
	物語文を改善した履歴をもとに、作品を清書する。	<ul style="list-style-type: none"> 交流や助言の内容を生かして、丁寧な文字で物語を清書している。 (書く能力)
3 1	作品を交流して、単元のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や描写をどのように工夫することができたか、学習したことをどのような場面で生かすことができるかについて、自分の考えをまとめようとしている。 (関心・意欲・態度)

7 本時の学習

(1) 目標

事柄や心情を効果的に表現するために、比喩や会話文、擬音語、擬態語などを取り入れて物語を書くことができる。(書くこと)

(2) 準備・資料

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援と評価（評）	
	T 1	T 2
1 前時までの学習内容と本時の学習課題を確認する。 物語はどのような表現の工夫をすると、読み手を引き付けることができるだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進度表を見ながら授業の流れを確認することで、本時の見通しをもてるようとする。 ・黒板に課題を示すことで、生徒が課題を明確に確認できるようとする。 	
2 模範となる物語を読んで、工夫されている表現を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> ・物語にはセリフが欠かせない。 ・擬音語や擬態語を上手に使っている。 ・比喩表現を使っている。 ・細かい情景描写が見られる。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・模範となる物語を示し、考える時間を与える、効果的に工夫されている表現について話し合うようにする。 ・挙手により意見を求め、内容を板書することで、本時の学習中に具体的な工夫点を意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導し、話合いや思考を促し、模範となる物語文のもつ特徴に気付かせるようする。
3 簡単な文を効果的な表現になるよう工夫して物語文に書き換える活動を行う。 簡単な文 「少年は学校の鉄棒で逆上がりをすることができた。」	<ul style="list-style-type: none"> ・主に会話文と比喩と擬音語・擬態語に関して例示して、工夫した記述ができるようする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を書くことが苦手な生徒には、書き出しの例を示して、描写のアイディアが浮かぶようする。
工夫点に対応させて、どのような効果をねらったのかを個人でワークシートに書き、どういった工夫が効果的なのかをグループで話し合う。 工夫点と効果の例 <ul style="list-style-type: none"> ・会話文を工夫すると、言葉遣いや会話の内容から人物同士の関係性や人物の性格が伝わって効果的である。 ・比喩を工夫すると、より具体的なイメージが伝わって効果的である。 ・擬音語や擬態語を工夫すると、起きている出来事に臨場感をもたせることができて、効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果をホワイトボードにまとめるように指示を出しクラス全体での意見交換で活用できるようする。 ・机間指導の中で、授業のねらいに沿った生徒の発言を聞き取り、周囲に返すことで、記述を工夫することがイメージ豊かに伝えることにつながることが実感できるようする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが停滞しているグループが円滑に意見交換できるように促し、表現とその効果についての理解が深まるようする。 ・工夫や効果の認識が不十分な生徒には、同じグループの生徒の作品の良い点に目を向させ、今後の表現方法の選択肢が増えるようする。
《学習の形態》 パーソナルワーク → グループワーク		
4 読み手を引き付ける物語の表現の工夫についてクラス全体で意見交換をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・全てを伝えるよりも想像する余地が残る 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループがまとめた工夫と効果を紹介して、どのように表現を工夫すると、読み手を引き付 	

ように工夫すると読み手を引き付けることができる。

- ・説明的な表現でなく、五感に訴えるような表現の方がイメージが湧きやすく、読み手を引き付けることができる。

《学習の形態》 クラスワーク

5 授業の振り返りを行う。

- ・場面や出来事の具体的なイメージをもつてから、どの部分をどのように伝えるかが考えることが大切であると気付いた。
- ・登場人物の言動を直接表現するのではなく、想像を膨らませるように書きたい。

けることができるかを考えられるようにする。

- ・意見をまとめ、次の学習活動に生かせるようにする。

(評) 事柄や心情を効果的に表現するために、比喩や会話文、擬音語、擬態語などを取り入れて物語を書いている。

(書くこと) (ワークシート・観察)

- ・学んだことを中心に、振り返りカードに自己評価を書くように指示をする。

- ・授業を通して自分の表現に役立てたい事柄があれば、書くように指示をする。